

# 山形県立自治講習所日誌——大正十四年 第十期生

〔表紙〕自大正四年一月廿日 日誌 第十期生

## 凡例

### 一、記載事項

- 一、月日
- 一、天候
- 一、記事（日課其他）
- 一、所感
- 一、記載ハ墨書ヲ以テス可シ
- 一、当番者ハ記載終ツテ日直職員ニ提出シ次番ニ渡ス可シ

一月二十日 火曜日 森谷壮吾

一、天候 曇 小雪

一、記事 午前五時起床

午前十時第十期生入所式挙行

午後一時より一般外出許さる

午後七時より高野先生自治寮生活一般に就きて種々の注意を分担を言ひ渡され  
た。

一、所感 本日第十期の入所式に臨み元氣ある諸君を迎へ、長官代理並に所長又は入所生  
総代の夫々熱烈なる御詞を聴して転「うたた」勇奮せざるを得ない。今後諸兄  
と共に層一層の修練を致さん事を記念すべき当日に於て誓ひます。

一月二十一日 水曜日 眞嶋哲造

一、天候 晴

一、記事 午前五時起床。午前八時ヨリ十時迄デノ間高野先生ノ生存ト生活御話アリ。午  
前十時十五分ヨリ十二時迄デノ間所長ノ農村ノ経営ノ御話アリ。午後二時半ヨ  
リ四時迄デノ間撃剣御話及ビ種々ノ注意ヲ言ヒ渡サレタ。

一、所感 無シ

一月二十二日 木曜日 丹野孝平

一、天気 曇

一、記事 一校時 所長ノ農村経営ノ講話

二校時 高野先生ノ土壤ノ講義

三校時 林学講義（横田講師）

四校時 武道

一、所感 私ハコレマデ浮雲ノヤウナ心ヲ抱イテ生キテ来マシタ。ケレドモ入所シテタツ

タ二日ノ間ニ心ノ落付ヲ強ク意識スルコトガ出来マシタ。私ハ今感謝ノ涙ニ暮レテ居リマス。尚今后共一層修養シテ総テニ真面目ニ生キテユキマス。

一月廿三日 金曜日 菊地甚作

天候、晴

一、記事 午前五時起床。午前八時ヨリ十時マデ江阪先生ノ果樹園芸ニ就ヒテノ講義アリ。

拾時ヨリ正午マデ高野先生ノ土壤学ニ対スル講義アリ。午后一時ヨリ三時マデ所長サンノ農村之経営ニ就ヒテノ講義アリ。後五時マデ武道アリ。午后七時ヨリ九時マデ一同ノ茶話会アリ。

一、所感 我此の講習所に入所して以来、未だ日月浅し。然し一度皆と行動を共にするや、何んにか救はれた様な、又更生した様な感じが致した。然何故かと問はれる時、答へる事は出来なひ。唯だ無意識に其処に引かれたのであった。今後此の無意識を明かにすると同時に御互の助けを借り自分を有意義にしやうと思ふ。

一月二十四日 土曜日 長谷川一郎

一、天候 小雪

一、記事 午前五時起床。午前八時ヨリ十時マデ森谷先生ノ養鶏ニ就テノ講話アリ。同十時ヨリ正午マデ高野先生ノ土壤ニ就テ講話アリ。午后休。

一、所感 私ハ入所以来頭痛ガシテ之ゾト云フ感モナイノデ有リマス。只本日ノ養鶏ノ御話ヲ聞キ今後我家ノ養鶏ニツキ改良スベキ事ヲ感ズタ。

一月二十五日 日曜 富樫實

一、天候 曇 小雪

一、記事 午前六時起床。日曜ニ付キ終日休。秋田県ノ荒木勝次君入所。

一、所感 私モ長谷川君ト同ジ様ニ入所以来頭痛ク、此間迄正午頃ヨリ頭痛ヲ始メテ困リマシタガ、武道其他皇国運動ヲ習ヒマスト全快致シテ居マス。ソレ等ヲ思フト、頭痛ノスル場合ハ運動ノ必要ナ事ヲ感じマス。尚亦入所生皆ノ真面目ナ行動ニ自分ノ精神モ緊張シ入所以来ハ別ノ人ニナツタ様ナ気分デス。

一月二十六日 月曜 鈴木貞雄

一、天候 曇

一、記事 午前五時起床

一校時 高野先生ノ土壤学

二校時 江坂先生ノ果樹園芸

三校時 五十嵐先生ノ歴史

四校時 武道

一、所感 当所ガ道場ト云ヘバ軍隊モ又道場ノ様ニモ思ハレマス。然シ乍ラ軍隊ハ当所ノ如ク精神修養ノ点ニ於テハ未ダ未ダ見習フベキ処ガ多イ事ト思ハレマス。精神修養上カラ見レバ軍隊生活ニケ年ヨリモ此ノ自治寮一ケ年生活ノ方ハ〔ガ〕遙カニ勝ツテ居ル事ト信ジマス。入所式ノ際、所長、内務部長ノ訓示ガアリマシタガ、殊ニ其ノ訓示ノ内ノ学校ヨリ寧ロ道場ダト云ハレマシタガ、此ノ自治寮ニ対シテハ最モ適切ナル言ダト深ク感じマシタ。終リニ我ガ皇国ノ弥栄ユルト共ニ我ガ自治寮モ弥栄ニ榮ヘン事祈リテ已マザル次第デアリマス。

一月二十七日 火曜日 高橋喜代次

一、天候 曇 小雪

一、記事 午前五時起床

一校時 森谷先生ノ養鶏法

二校時 清水講師ノ人生觀及ビ我々人間ノ修養ニ付キテノ御講話

三校時 江坂先生ノ食料ノ營養価値ニ付キテ

四校時 校舎内及ビ自治寮内ノ大掃除ヲナス

一、所感 江坂先生ヨリ食料ノ營養価ニ付キ御話ヲ御聞致シテ痛切ニ感じザルヲ得ナカツ

タ。我国ノ食料ノ調理法ノ不合理デアル故、今後改善スベキ点多イニ有リ。此ノ結果外国人ノ身体ト比較シテ劣ツテ居ルノデアル。之ニ付ケテモ我々講習生ハ日日修養シ身体健全ニシテ国家ノ為メ君ノ為メ社会ノ為メ尽クシ弥栄ニ成サナケレバナラヌノデアリマス。

一月廿八日 水曜日 寒河江與一郎

一、天候 雪

一、記事 午前五時起床

午前八時ヨリ卅二聯隊黒溝台横〔模〕擬戦見学に行く。午后一時ヨリ舟越先生ヨリ習字を習ふ。全二時ヨリ四時迄所長の農村経営ニ付きテノ講話アリ。  
一、所感 本日ノ模擬戦ヲ見学致しまして僕ノ身はモウ黒溝台に行キ君国ノ為□身ヲ捧ゲテ戦ツテイル様ナ氣がシタ。

一月廿九日 木曜日 鈴木良助

一、天気曇小雪

一、記事 午前五時起床

一校時 高野先生ノ土壤学

二校時 所長ノ学問ヲスルニ大切ナ御話

三校時 東村山郡金井村助役（本校第一期卒業生）五十嵐政次郎氏ノ産業組合ノ話、金井村一覽表丁〔頂〕戴シテ。

四校時 ナシ

一、所感 僕ノ最モ嬉シク感じタノハ第一階級ガ無ク円満主義デアルトイウコトデス。第二ニハ各身誠実デ僕モ斯ノ如ク誠実ナ人間ニ感化サル、事カト思ウト嬉シクテタマリマセン。第三ニハ武道デス。毎日武道ヲヤツテ身体ヲ鍛練シテ永遠ニ国家ノ為ニ尽シタイト感じマス。諸先生ニ御習シタ事ハアクマデ実行シヨウト思ツテ居リマス。

一月卅日 金曜日 山口清篤

一、天候 曇天

一、記事 午前五時起床

一校時 高野先生ノ土壤学

二校時 江坂先生ノ果樹園芸

三校時 刀禰先生ノ地方制度

四校時 午后三時ヨリ五時マデ武道

一、所感 私ガ入所以来痛切ニ感ジタ事ハ各自自治的ニ何事ニモスルト云フコトデス。僕モ自治的精神ヲ養成サル、事ト思フト何ヨリ嬉シク思ヒマス。又本日ハ地方制度ノ御話シ我等将来ニ於テ必ず学バナケレバナナイト思ヒマス。此レヨリ一心同体トナツテ身心ノ修養ニ努メタイト思ヒマス。

一月三十一日 土曜日 大沼繁彌

一、天候 雪後晴

一、記事 午前五時起床 甲組ノ武道、乙組ノ掃除、例日ノ如ク朝ノ仕事ヲ終ル。

一校時 森谷先生ノ養鶏

二校時 所長ノ農村経営ノ根本ニ付テ

后後 一時ヨリ一般外室自由ヲ許サル。

一、所感 入所以来日尚浅しと雖も一度び回顧すれば過去現在ニ付いて万感胸に迫るなり。曩きに余は同所の内要〔容〕に付き知人に承聞する処あり。亦三年前当郡ノ中堅青年の短期講習会ニ聴講致して益々入所を希望したるも、家事の都合ありて今日に至り、多年の宿望恙なく其の挙に進むを得たる事は最も歡喜に絶えざる処なり。或は強く或は弱く反省を重ねて日々新に啓け行く心地す。是れ皆余の最も尊敬する所長殿始め諸先生の御人格に直面致し身心の禊を實行すると共に、最も真劍に最も懇切なる御教授の賜まものにあらずして何んぞや。入所以来の感、皆斯処に極まるならん。今後は益々根本的理想信仰を徹底的に自覚し其の実修に勉むる可く、同輩諸兄と共に一意専心諸先生の教訓を遵奉致す確心なり。嗚呼万感何に報えん。唯余の確信に向つて勇往邁進せんのみ。終り。

二月一日 日曜日 加藤嘉久弥

一、天候 晴

一、記事 午前六時起床、終日休業

一、所感 日曜ノ為、概シテ平凡デシタ。森谷先生ノ實際的經濟家ナノニ感心シマシタ。

ソレハ理髪ニモ御金ヲカケヌコトデス。知ラナイ前ハ仕方モナイガ、知ツタ今日カ  
ラハ、之ニモ一ツ我々ノ自治的精神ノ一部ヲ表シタイト思ヒマス。

二月二日 月曜日 多田野正義

一、天候 小雪 曇

一、記事 午前五時起床

一校時 所長講話

二校時 所長ノ植物生理学講

三校時 五十嵐先生ノ郷土史

四校時 武道

一、所感 鬼となり仏となりて世の中に つくす誠ぞ尊りける

二月三日 火 平幸一

一、天候 小雪

一、記事 午前五時起床、甲組武道

一校時 養鶏

二校時 農村経営

午后 五時迄全生徒ノ武道

本日、取鳥〔鳥取〕県ノ岩本泰治君入所ス。夜七時ヨリ救世軍山室大佐殿ノ講  
話ヲ聞キニ行ク。

一、所感 人生ノ偉大ナカヲ表スモノハ修養ノ宝ノ為ト思フ。吾人等ハ今後休ミナク修養  
ノ路ニ就キ、最後ニ喜コンデ死ニ就フト思ヒマス。

二月四日 水曜日 小形三郎治

一、天候 曇 後晴

一、記事 午前五時半起床

一校時 所長サンノ講話

二校時 江坂先生ノ果樹園芸

三校時 船越先生ヨリ習字

四校時 大掃除

午前九時半頃豊田村青年ガ百幾人ガ学校ニ参リ所長ヨリ講話アリ。道場ニテ昼食後乙組ガ青年団ニ皇国運動ヲ行ツテ見セ後、軍歌ヲ歌ツテ其ノ行動ヲ御見ニ掛ケタ。掃除後生徒全体ニテ武道アリ。

一、所感 敷島ノ大和魂ヲ人トハバ 朝日ニ匂フ山桜花

二月五日 木曜日 諏訪部謙吾

一、天候 晴

一、記事 五時起床

第一校時 所長加藤先生ノ救世軍大佐山室軍平氏ノ講演ニ就イテ我々ガ特ト注意スベキ事項ノ講述アリ。

第二校時 農村経営之内武道ノ講義アリ。

第三校時 産業組合ヲ中心トセル金井村ノ研究中、諸税ニ就イテノ講義アリ。

第四校時 同上

所感 近頃迄私ハ自然ニ対スル感謝ノ念、社会ニ対スル感謝ノ念、又生キテ居ルト云フ事ニ対スル感謝ノ念ハ事実殆ンド起ラナカッタ。ムシロ生キテ居ルト云フ事ガ意義ヲナサナイ様ナ感じガシテ居タ。

入所以来ノ講義ニ依ツテ今迄ノ自分ノ考ヘテ居タ事ガ誤リデアリ、人間ハ生クベキデアリ、神ハ生クベキデナイモノヲ生ク筈ガナイ。人生ニアキタラナイ様ナ感じカ〔ガ〕シテ居タ事ハ、ヨリ以上強ク生キタイガ為デアツタト云フ様ナ事ガハツキリ分ツテ来タ。ソシテ事実、此自然ハ自分ヲ生カシテ居リ、且ツ生カスベク努力シテ居ルト、コウ思フト、初メテ自然ニ対スル感謝ノ念、社会ニ対スル感謝ノ念、人類同胞ニ対スル感謝ノ念、即チ神ノ難有サガムラムラトワイテ来ル。殊ニ皇国運動ノ際、東ノ山ノ端カラ立登〔昇〕ル朝日ヲ拝スルトキハ何トモ云ヘナイ生キ生キトシタ感じト又無限ノ難有味ヲ味会〔ワ〕フ。「神に聴け」「吾生きず神吾に生く」、コノ二語ガ最モ強ク私ノ胸ヲ打ツタ。出来得レバ尚三度モ四度モ御聞キシテモツトモツトハツキリトシ且ツ確ナ人生觀ト社会觀ヲ確立シタイト思フ。

二月六日 金曜日 菊地勘治

一、天候 曇時折雪

一、記事 五時起床

第一校時 所長殿ノ農村経営ノ話

第二校時 江坂先生ノ果樹園芸ノ話

第三校時 高野先生ノ土壤ノ話

第四校時 船越先生ノ武道

一、所感 私ハ入所当時ハ祖母ノ病氣ノ關係上、自然精神モフラフラシテ居マシタガ、コ  
ンドコソハホントニ真面目ニ修業シタイト思ヒマス。私ハ今日ノ所長サンノ才話  
デ読書スルニ付イテノ注意事項ガヨクワカリマシタ。又江坂先生ガ我等ニ質問シ  
テ下サツタコトニヨリマシテ我々ノ注意力ヲ呼び起シテ下サツタコトハ誠ニ喜バ  
シク思ヒマス。又高野先生ノ細訳ニ渡テノ才話ニハイツモ嬉シク思ヒマス。

二月七日 土曜日 本間昌爾

一、天候 曇

一、記事 五時起床 甲組武道、乙組掃除

第一校時 土壤学 高野先生

第二校時 土壤学ノ他色々有益ナル講話アリ 高野先生

午后ヨリ土曜日ノ為休業

一、所感 私ハ今迄夏季ノ清イ清イ日光大氣ヲ全身ニ迎ヘナガラ精神静置スル代表的運動  
ニ対シテハ非常ニ重キヲ於テ居ツタガ、冬季ノ屋外運動ニ対シテハ余リニ重キヲ  
置カナカツタ。而シスキーノ流行ト共ニ遂〔逐〕年余暇ヲ見テ愛用スル人々ノ多  
クナツタノハ喜シク感ズル。而カモ常ニ運動ノ不足シテ居ル人々ニ愛顧サレテ居  
ル事ハ最モ嬉シク感ズル。此レヲシテ益々發展セシメ、夏ノ自転車ニ対スル冬季  
ノ一交通機關トシテ一方ニ於テハ運動、他ニ於テハ実用的ニ使用スル事出来タラ  
何程便利ダラウトツクツク感ジタ。

二月六日 日曜日 平山正明

一、天候 晴

一、記事 卒業生の中の人が入所、終休日

一、所感 私はずくづくと思つたのは今日の新聞を見て此の自治講習所を卒業して不良少

年の団長となつて此の講習所に恥をしめすと云ふ事は何んの事であらう。

二月九日 月曜日 加藤友治

一、天候 晴

午前五時起床、各自各室掃除整頓

自午前五時二十分 至〃六時三十分 乙組武道実習、甲組掃除皇国運動

自午前八時 至〃九時 果樹園芸 江坂先生

自午前九時 至〃十二時 土壤学 高野先生

自午后一時 至〃三時 郷土史 五十嵐先生

自〃三時 至〃四時半 武道実習 船越先生

自〃七時 至〃九時 黙読

午後九時 礼拝就褥

所感ナシ

二月十日 五十嵐雄助

一、天候 曇

午前五時起床

自午前五時二十分 至〃六時半 乙組武道、甲組掃除皇国運動

自午前八時 至〃九時 土壤学 高野先生

自午前九時 至〃十時 農村経営 所長

自〃十時 至〃十二時半 体格検査

自午后一時二十分 至午后三時半 体格検査

午後九時 礼拝

所感 無し 以上

二月十一日 水曜日 森山良三

一、天候 雪

一、記事 午前五時半起床、各組共掃除、自午前六時三十分皇国運動、祝日（紀元節）授

業休ミ、自午后七時 至〃九時黙読

所感 私ハ本日痛切ニ感ンジタ事ハ、黙読時間ニ緊張シ勉強ナサレ居ラル、講習生諸君等

ヲ思フト、此レ皆諸先生等ノ最モ真剣ナル御教授ヲ賜ワリシ事ヲ思ワズニハ居ラレマ  
セン。其ノ上今日ノ御目出度イ日ニ此ノ日誌ヲ書ク事ハ、之又此ノ上ナキ喜ビト深ク

感ンジテヤミマセン。

二月十二日 木曜日 石山竹彦

一、天候 小雪

一、記事 午前五時起床

第一校時 習字 船越先生

第二校時 土壌学 高野先生

第三校時 肥料学 高野先生

午後の三時より県会議事堂に於いて増富君の勤儉力行の講演ありて大いに感復

〔服〕に垂れたり。

自午後七時 至九時 黙読

一、所感 朝の九時には所長さんが庄内方面に講演に御出かけになったので、私の心はどんなに地方民があのかで動かされる出しやか想像し得るが、私はあの元気のある声で理想信仰を御話しすると思ふと胸には深い印象〔象〕がきざまれずに居られなかった。

我等は午后よりは議事堂に行つて増富君の勤儉力行の御話しは同感でした。其の内でも気に入つたのは上杉鷹山の勤儉でした。それは、鷹山が米沢藩の時に地方の土地が荒怠〔廢?〕になつたのを引受けた時で、まづ人民を集めて聴いたのであつた。其より神に誓つて其れより勤儉を進めたのであつた事でした。それより日本がまだまだ勤儉する必要あると語た。其れを徹底し且つ修養もし禁酒の国をするの基を作るの大和魂の發揮と反感〔ママ〕したのである。

二月十三日 金曜日 安倍登作

一、天候 曇

一、記事 午前五時起床

甲組武道、乙組掃除

第一校時 相野田先生之憲法論講義

第二校時 (午後) 刀禰先生ノ地方制度ノ講義

第三校時 甲組藁仕事実習、乙組武道

午後自七時至九時目読自習

一、所感 私ハ入所以来、武道ト皇国運動ト所長ノ話ニ多イニヒキツケラレタ。武道ハ心ヲオチツケルニ皇国運動ハ精神上カラ又体ヲ丈夫ニスル為ニ多イニ善イ感化ヲ与ヘテクレタ。所長ノ話ハ精神上カラ行動ノ上カラ善イ感化ヲ与ヘテクレタ。

二月十四日 土曜日 山岸治輔

天候 曇ニ雪

一、記事 午前五時起床

甲組掃除、乙組武道

第一校時 荒木先生ノ桑樹栽培方法ノ話

第二校時 高野先生ガ高橋長谷川両君ノ事実談

今日ハ土曜日デ昼ヨリ休業

一、所感 僕当所ニ入所以来凡ソ一ヶ月ニナリマス。当所ニ入所以来諸先生ノ色々ナ話ハ如〔悉〕ク皆頭ニシミコミマシタ。武道又皇国運動ハ僕ニトツテハ修養デス。所長サンノ話ハ身ニシミ過去ヲ悔イズニハ居ラレマセン。此レモ自分ニトツテ講習所ヲ出テカラノ自分ノ為ニナル話デス。僕ハ諸先生ノ話ヲモラサズ聞キ逃ガサジト思ツテ居リマス。

二月十五日 日曜日 郷野勇助

天候 晴

一、記事 午前六時起床

甲組乙組掃除〔除〕皇国運動

日曜日 休業

午前十時頃、朝鮮から来た人で所長に面会に来たが留守にて高野先生と面会、此の時産業技師と自治講習所卒業生と来てあつた。

午後五時十五分ヨリ県会議事堂下位〔しもい〕春吉先生ノ日本と伊太利ノ現代のお話ガアツタ。

一、所感 朝鮮カラ来タ人ノ話ニ聞クト其レ程マデニ移住民ヲ丁寧ニスルノカト思ツタ。

二月十六日 矢萩貞一郎

天候 晴

午前六時起床各自各室掃除

自午前六時二十分 至〃〃六時四十分 甲乙組掃除

自午前六時四十分 至〃〃七時十分 甲乙組皇国運動

自午前八時 至〃〃十時 肥料学 高野先生

自午前十時 至〃〃十二時 肥料学 高野先生

自午後一時 至〃〃三時 郷土史 五十嵐先生

自午後三時 至〃〃五時 甲組武道、乙組藁仕事実習

自午後七時 至〃〃九時 黙読

午後九時 礼拝 就褥

所感ナシ、以上

二月十七日 火曜日 樋口若二

一、天候 晴

午前五時起床、各自各室掃除整頓

自午前五時三十分 至〃〃五時三十分 甲組武道実習、乙組掃除皇国運動

自八時 至十時 果樹園芸 江坂先生

自十時 至十二時 副業 鈴木先生

自一時 至三時 養鶏 森谷先生

自三時 至四時半 武道実習 船越先生

自七時 至九時 黙読

午後九時礼拝

所感 本日鈴木先生の講演中に天然絹糸と人造絹糸に就いて精しく講ぜられた。私共の考

は、米国の人造絹糸の製造高は、全国人造絹糸の製造高の約八割を占むる程製造旺盛を極めつゝあると新聞紙上、或は雑誌等にて記憶を止めていたので、本邦輸出品の主たる絹の輸出は漸次日に輸出の数少きを見るでまいかと少々悲観気味であつた。

然るに先生の御話しによれば人造絹糸の製造は全国中米国は最も旺んであるが、天然絹糸とは全く違ひ、彼の米国に於てさい「え」中流社会では人絹を嫌ふて居ると云はれた。昔に米国人絹は欧州大戦当所より之れが製造隆盛を極めたのであつて、天然絹糸と人造絹糸の特質が異にして、天然絹糸は人造絹糸に比し、遙かに優れたる特質を有するのである為に従つて需要も高まると云ふ。現に本邦蚕糸業者間に於て悲観論を

叫ぶもの多く有るが、這は決して悲観するに及ばないと云ふお話であつた。是を聞く時、我等は先生の信念と共に益々輸出額を高めしめ、国債五十五億余万円も、大正十三年貿易入超六億三千余万円も、忽ち回復せしめ、国家の隆盛を期し、我々は極力農事の改善策を講ずると同時に輸出品の主たる生糸、即ち蚕糸業の進展につとむべき時で有る事をしみじみと感じた。鶏鳴我の耳を打つ。明朝より振り起せ。我が心、わが国民よ。

二月十八日 水曜日 矢野久蔵

天候 曇

記事 午前五時起床、各自各室掃除

自午前五時 至午前六時半 乙組武道、甲組掃除皇国運動

午前七時 礼拝、朝食

自午前八時 至午十時 土壤学 高野先生

自午前十時 至午前十二時 郷土史 五十嵐講師

正午(十二時) 昼食

自午後一時 至午後三時 副業 鈴木講師

自午後三時半 至四時半 各組 大掃除

午後五時 夕食 入浴甲組ヨリ

自午後七時 至午後九時 黙読

午後九時 礼拝就褥

所感 米国人造絹糸ハ日ニ進歩ノ度ヲ高メ天然絹糸ノ生産国タル本邦ハ此ガ生産費ノ額ヲ増シ高価販売ヲセザレバ収支相償ハザル状態トナレリ。此ノ時生産費ノ節減ニツトメ廉価ヲ以テ輸出スルカ、然ラズンバ卓越セル機械利用ニヨツテ織物輸出スルカノ二方エ相待ツニアラザレバ、逆モ国利民福ノ増進ヲ期待シ難キ状態ニ迫レリ。萎微〔靡〕フルハザル本邦機械工業ヲ以ツテ輸出額ヲ高ムルニ至難ナレバ、機械ノ發明ニツトムルト同時ニ人造絹糸天然絹糸ノ生産ニ努力シ国力ノ増進ニツトムベキナリ。難局ニ遭遇セル国状ヲ推知奮ツテ立ツベキ秋ハ来タレリ。ソレ鶏鳴我レニ告ゲザル宵ヨリ振イ起キヨ、諸君！

二月拾九日 木曜日 菱沼禮治

天候 曇

記事 午前五時起床

自午前五時 至六時半 甲組武道、乙組掃除皇国運動

午前七時 礼拝 朝食

自午前八時 至午前十時 産業組合 五十嵐先生

自十時 至十二時 郵便局長ノ御話

自午后一時 至三時 林学 横田技師

正午 昼食 (前後トリ違エ)

自午后三時 至四時半 甲組実習、乙組武道

午后五時 夕食 入浴乙組ヨリ

午后五時ヨリ午後七時迄 一般休憩

自七時 至九時 黙読

九時 礼拝 就床

所感

山形郵便局長ノ勤儉ニ関スル有益ナ講話アリ。我々国民青年ニトツテ重大ナル問題ハ此ノ勤儉デアル事ヲ再ビ知ツタ。矢張勤儉ハ国民ノ意志ガ健全デナクテハナラナイコトヲトキ、御互ニ保険ニ這入り自分ノ身体ノ保険ヲシテモラヒ、生業ニ励ミ、其シテ常ニ心ヲ天皇ニ置き我々ノ精神ヲ慥リシナケレバナラナイ。局長ハ保険ニ這入ルコトヲ大イニ進メテ席ヲ退イタ。保険ノ事モ大イニ讃スル所モ有リマシタ。アノ講話ニヨリ大イニ感シタ所有ツタ。ア、御互ニ意志ヲ剛健ニ持チ勤儉ニカメマセウ。カムベキハ青年諸士ヨ振イ起セ。

二月二十日 金曜日 高橋耕作

天候 雪

記事 午前起床

自午前五時 至六時半 乙組武道、甲組掃除皇国運動

午前七時 礼拝、朝食

自午前八時 至午前十時 果樹園芸 江坂先生

自午前十時 至十二時 肥料学 高野先生

自午后一時 保険ノ話シガアリマシタ。

自午後二時 至三時 地方制度 刀祢先生

正午 昼食

自午後三時 至四時半 甲組武道、乙組実習

午後五時 夕食 入浴ナシ

午後五時ヨリ七時迄休憩

午後七時ヨリ九時マデ茶話会

九時礼拝、就床

所感

私ハ諸先生ノ儉約ナコトガ感ゼラレマシタ。唯ダ一杯二杯ノ御茶ヲモ儉約スルト云フコト  
 デス。私モ家ニ帰ヘツタナラバ御客様ガ御出来サツタ時デナケレバ御茶ヲ飲ムマイト思ヒ  
 込ンダノデアリマス。ソシテ身体ノ為ニモ害ナク此程実利的ナモノハナカロウト思ヒマシ  
 タ。チリモ積レバ山ニモナル。

二月二十一日 土曜日 武田實

一、天候 晴

一、記事 午前五時起床

甲組掃除、乙組武道

午前七時礼拝、朝食

自八時 至九時三十分 皇国運動の講義 高野先生

自九時五十分 至十二時 肥料学 高野先生

十二時 昼飯

午後 学科休む

五時二十分 夕飯

黙読時間なし

九時礼拝、就床

一、所感

海ゆかばみづくかばね やまゆかば 草むす屍 大君のへにこそしなめ かえりみはせじ  
 午後から一寸所長さんが御帰りになられたが嬉しかった。

二月二十二日 日曜日 鏡清

一、天候 晴午后ヨリ雪

一、記事 午前六時起床。全員掃除ニ従事。午前七時ヨリ皇国運動ヲ始ム。同七時半終リ礼科ヲスマシ。午前八時食事。正午昼食、同五時夕食。午後七時ヨリ九時マデ黙読。午後九時礼拝ヲ終リ就床。前月来病氣ノ為メ帰省シテ居ツタ船山君来校セリ。  
所感 特別なる所感もありませんでしたから左ニ二首を詠じて所感に換ふ。  
一、朝ごとに籌を取りてむらき★〔た？〕のこころのちりを掃ふうれしさ  
一、弥さかへに栄ふる国のますらをの心もかたし自治に立つ身ハ

二月二十三日 月曜日 高橋助廣

一、天候 晴

一、記事 午前五時起床、甲組掃除、乙組武道、午前七時礼拝、朝食、午前八時半ヨリ学  
科ヲゼズ重大問題ガ起ツタノデ一人一人調ベタ、二時迄。

午後二時昼飯 午後二時半ヨリ少シノ間問題ノ解決ヲ話シタ。同四時ヨリ五時半迄

柔道試合。

六時夕飯 七時ヨリ九時半迄黙読、八時半礼拝

所感ナシ

二月二十四日 火曜日 今田萬郎

一、天候 曇、雪

一、記事 五時起床、甲組武道、乙組掃除

一校時 江坂先生ノ果樹園芸

二校時 森谷先生ノ養鶏

三校時 船越先生ノ習字

四校時 武道

一、所感 本日剣柔ノ稽古ノ際、本間君ノ師範ブリヲ見テ我等ハ剣道ノ弥栄ヲ見ル由ダ。

二月廿五日 水曜日 鈴木恒太郎

一、天候 晴

一、記事 五時起床 甲組掃除、乙組武道

一校時 所長さん

- 二 〃 高野先生の土壤
- 三 〃 高野先生の肥料

授業後 講内大掃除

所感 所長殿ヨリ受ケタル講演中、我国ノ外国ニ学ブ可キ第一ノ点ハ独立独歩ニアルト。

而リ我々ハ独立独歩ノ精神ヲ養ヒ嶮シキ山路ヲ辿ル可キ覚悟ヲ以テ大イニ活動スベキデアル事ヲ深く感ジタ。今少シ御話ヲ承リタキ所デシタガ、最上郡へ出張ノ事ニテ午前九時本所ヲ出発セラレマシタ。終リ。

二月二十六日 木曜日 森浅吉

一、天気 晴

一、記事 五時起床、甲組武道、乙組掃除

第一校時 高野先生ノ土壤学

第二 同 横田先生ノ林学

第三 同 高野先生ノ肥料学

第四 同 五十嵐先生ノ産業組合

一、所感 私ハ講習所ニ来テ感ジタノハ、所長初メ諸先生等ノ我等ニ教育シテ下サル事ノ

一心ナル事ヲ覚デハ、我等ハ是非供〔共〕自学セネバナラヌト思イ〔イマ〕ス。本日ハアマリ感ジタ事ハアリマセンデシタ。

二月二十七日 金曜日 後藤初郎

一、天候 晴後曇

一、記事 五時起床、甲組掃除、乙組武道

午前八時ヨリ九時マデ 一校時 江坂先生の果樹園芸

九時ヨリ十一時四十分マデ 二 同 相野田先生の憲法論

午後一時三十分ヨリ二時マデ 三 同 江坂先生の果樹園芸

二時ヨリ三時マデ 四 同 刀祢先生の地方制度

三時ヨリ四時マデ 全員にて柔道、剣道自由。

一、所感 私人所後ハ諸先生ヨリ自分ノ悪キ処戒メ下サレ非常ニ身ニ沁ミ込ミ、氣ノ持様大キク下腹ニ力ヲ入リテ、内心ハウカウカゼズ〔ママ〕ニナリマシタ。朝起床ノ貝ノ音心ノ低〔底〕々ヨリ楽シク感ジ、雲一ツ無キ青空ニ光々ト上ル。太陽弥栄ヘニ

栄ヘル如ク、毎朝毎朝生レ変ル也。又自習時間ニ近室ニ出入スル者多シ。所長殿留  
守中ハ自治寮ガ或ル一部ガ物足りナク円満ナラズ、淋シク感ジマス。今後尚一層努  
力身ノ修養（確實ナル生魂）ニ勤メマス。

二月廿八日 土曜 後藤雄太

一、天候 雪後曇

一、記事 五時起床、甲組武道、乙組掃除、皇国運動

学科 第一校時 土壌学 高野先生

第二校時 肥料学 高野先生

今日は土曜日ノ故、約全員ノ三分ノ一帰省致シタ。又卒業生ガ□□テアツタ。  
九時

一、所感 僕ハ大部イタヅラニナツタ事思ハレマス。ケレ共亦入所以来子供気分ガ余程抜  
ケタカト思ヒマス。又私ハ心ガニツアル事ガ悪ヒト思ツテ居リマスケレ共、ナカナカ  
直リマセン。一ツハ家ニアツテ之カラ農業ヲヤルツモリデスガ、ドーモ働イテワカリ  
マセン。之モ修養ガ足りナイカラダト之カラ一層努力致シマス。

三月一日 日曜日 晴 早坂喜平

一、天候 晴

一、記事 五時起床、甲乙両組掃除、皇国運動、終日休業

一、所感 今日ノ炊事当番ノ人ニハ衷心ヨリ感謝スルヲ得ナイ。三時半ト云フニ飛び起キ  
テ冷タイ朝ヲモ厭ハズニ臼ヲ鳴ラシタ。ア、実ニ陰レタル犠牲デアラウ。斯シテ出キ  
タル納豆餅ヲ食膳ヘ供ヘラレテ食ツテ見タラ堪ラナイ程ウマイ。モツトモツト食タイ  
様ナ感ジガシタ。実ニ感謝シマス。

卒業生ガ午前中ヨリボツボツ見エラレ、午後ニハ委員ヲ開催サレテ色々協議セラレマ  
シタ。一時半頃所長殿ガ帰ラレタ。雄々シキスタイルヲ玄関先ニ現サレタ時ハ嬉シク、  
明日ヨリ御話ヲ承ハラレルト感ジタ。終リ。

三月二日 月曜日 雪、風、五十嵐秀

一、記事 五時起床

甲組掃除、乙組武道、皇国運動。

学科 第一校時土壌学 高野先生、第二校時農村経営 加藤先生、第三校時歴史  
五十嵐先生、午后三時十五分―雄弁会

一、所感 先生ノ情赤裸々に大イニ腹ニ感じました。第一回雄弁会ノ弁師〔土〕諸君ニ感  
謝致しマス。其辨〔ママ〕ガ最モ判全デ元氣ニ富ンデキマシタ。

一、反省努力 早坂喜平君

一、我が故郷ニツキテ 大沼繁彌君

一、農村振興ヲ期ス 樋口若二君

一、人生ノ真意義ハ労働ニ有リ 矢萩貞一郎君

一、所感 遠田寅治君

一、吾輩ハ代議士デアル 加藤嘉久弥君

一、弥栄 五十嵐雄助君 以上七名

所長サンノ話シ、我々ノ骨髓ニ感じマシタ。

二月三日 火曜日 尾崎徳太

天候 雲雪

一、記事 五時起床

一、乙組 掃除、五時半より武道

一、皇国運動

一、午前七時礼拝、朝食

一、午前八時十五分副業、森谷先生

一、午前十時十五分ヨリ所長の植物、正午まで

一、昼飯

午後二時より高野先生、先日の肥料学

一、甲乙組武道、三時四十分カラ四時四十分マデ

所感 無シ

本日は図書室に病室設けられた。

流感人 平幸一君、佐藤正雄君、五十嵐雄助君、鏡清君、大田君、鈴木恒太郎君、本  
間昌次君、加藤君、八人

三月四日 水曜日 設楽恵吉

一、天候 晴後曇

一、記事 五時起床、乙組武道、甲組掃除

第一校時 土壌学 高野先生

第二校時 農村経営 加藤所長

第三校時 肥料学 高野先生

第四校時ニハ一同ニテ大掃除

後午后七時ヨリ茶話会、所長殿ノ話

所感 十一屋ノ菓子オイシカツタ、オワリ。

三月五日 木曜日 手島精吉

一、天候 雪

一、記事 六時起床、甲乙組掃除

一、校事 農村経営 所長

一、校事 書方 舟越先生

一、校事 肥料 高野先生

一、校事 農学大意ノ話 高野先生

一、校事 産業組合 五十嵐先生 終り

三月五日〔六日〕 晴天 金曜日 荒木勝次

一、記事 五時起床 甲組掃除、乙組武道

午前自八時 至十時 果樹園芸 江坂先生

同 自十時 至十二時 地方制度 学務課長

昼食

自一時 至三時 肥料学 高野先生

自三時 至四時半 柔道撃儉〔剣〕 自由

所感 自分ノ愚ナル事ヲ心カラ感ジタ。

三月七日 土曜日 岩本泰治

一、天候 曇天

一、日課 五時起床、甲組武道、乙組掃除。八時ヨリ拾時マデ高野先生ノ土壌学、拾時ヨ

リ拾式時マデ農業ニ関スル問題ニ対スル各自ノ解答。午後休業、黙読時間なし、九時就床。

一、所感 入所以来、私の最も感じている事は将又頭に心に烈しく刺戟された事は理想信仰に依る形式の実修〔実習?〕です。寒風肌をつんざく朝、心の垢を流さん為、禊する男の子は実に神の様に尊い。そして清浄無垢となりて武道により堅実な精神を得、亦皇国運動の実に神秘なる事。吾等は皇国運動に有るが如く、天晴れ、あな面白、あな手伸し、あな明けの精神で凡てに修養し打ち勝つ事、之で有ると思ふのです。入所以来、私は自己の前途に偉大なる活躍せねばならないと云ふ心を発見しました。

唯私の進路は精神修養の一路有るのみ。今日一日に対する所感にはなりますまいが。

参月八日 日曜日 船山清徳

一、天候 降雪後晴レ

一、起床六時 六時ヨリ甲乙組掃除

一、六時半ヨリ皇国運動 船越先生

一、終日休業 本日ヨリ感冒〔冒〕ニ罹ツタ人ハ全快シ食堂デ御飯ヲ食ベタ。午後七時黙読、同九時就床。

所感 私ハ講習所ニ入ツテカラ病氣ノタメ一時帰宅シタガ、再ビ来所シ自心ヨリ修養シタイト思へ、諸先生ノ御熱心ナル御指導ヲ仰ギ日々修養シテ居リマス。小生ノ身ハ軟弱ナルタメ思フ存分ニハ出来ズ、全ク残念ト思ツテ居ル。ダガ身ヲ大切ニシ、ヤレル丈ケ修養シ帰村後ハ一心ニ職業ニ務メマセウト思ツテ居リマス。

三月九日 月曜日 渡邊健吾

一、天候 晴 午後四時頃雨

一、記事 一、起床 午前五時

一、甲組 掃除、乙組 武道

午前自八時 至十時 桑樹栽培 荒木先生

自十時 至十二時 土壌 高野先生

午後自一時 至三時 歴史 五十嵐先生

自三時 至五時 地方制度 刀禰先生

五時ヨリ七時迄デ自由時間、七時ヨリ八時迄デ讚美歌ノ練習、八時ヨリ九時迄デ黙読時間、九時礼拝

所感 私の最も感じたのは生徒の地方青年よりも親切なる事、又先生も其の通です。又私  
が家に居れば朝起されるが、講習所に来てから今迄一度も起されぬのが不思議に感  
じた。

三月十日 火曜日 眞嶋哲造

一、天候 晴

一、起床 午前五時

一、第一校時 果樹園芸ノ講義（江坂先生）

一、第二校時 土壌学ノ講義（高野先生）

一、第三校時 午後一時ヨリ撃剣ノ仕合アリ

所感 世ノ中ノ人ハ良ク人生ノ意義ハ何々ニアリトカ人生ノ意義ハ何々ナリトカ言フ。ケ  
レ共真ニ私ヲシテ首肯セシムルモノハナカツタ。

人間其物、人生其物、人類永遠ノ目的其物ヲサエ解シエナイ。其物ヲサエ知ル事ヲ得バ、  
私ガ此処ニ入所ノ目的ハ達シ得ルツモリデ居ル。何トナレバ吾人ノ活動ハ此処カラ初マル  
到達スベキモノ何モノモナイ。理想ノナイ人生ハ淋シイ。且ツ又生活ガ虚偽トナル、虚偽  
ナル事ハ凡而苦痛ヲ伴フト同時ニ真剣味ヲ欠ク。ケレ共私ハ此ノ現実ノ生ヘノ無理解ニ対  
シテ執着ハ脱シ得ナカツタ。入所以来ノ大和民族ノ理想信仰其他ノ講義ニ依ツテ得ル所ノ  
多大ナルモノアリ。人生ノ意義モ余程ハツキリシテ来タ様ナ氣ガスル。然シマダマダコノ  
堅実ナル人生観ノ確立ト、イサギ良キ社会ノ奮闘児タラン事ノ努力ト修養ハ惜シマナイツ  
モリデアル。

三月十一日 水曜日 丹野孝平

天候 雨 午后曇

記事

起床五時

一校時 習字 船越先生

二校時 自習

三校時及四校時 地理

所感 午後六時より七時まで静かな事務室で黙想する。生きて★る者は生きた仕事をせねばならぬ。何者か耳もとで叫ぶ。と、私の全身は強く鞭打たれる。修養が足りないのだ。まだまだ修養が足りないのだ。時計は絶間なく時を刻んで居る。一分時も浮々して居られないのだ。より真面目により真剣に修養する。そして―必ずすべて生きた仕事をやるのだ。

木曜日 三月十二日 林勘次郎

天候 曇 後小雪

記事 午前五時起床

一校時 高野先生 土壌学

二校時 横田先生 林業学

三校時 五十嵐先生ノ産業組合

四校時 船越先生 武道

七時ヨリ九時マデ自習

所感 我等入所以来加藤所長初メ諸先生方ノ親ニモ勝ル親切ナ将又有益ナル教育的自治的生活ヲ深く感謝致シマス。然ル様我ガ身ノ此ノ尊キ自治寮ニ在ルニ、一時ノ執着心ヨ我マ、ヲトウシタノハ今ナガラ改心致シマシタ。

三月十三日 金曜日 菊地勘治

一、天候 晴

二、起床 午前五時

三、甲組掃除、乙組武道

四、記事 一校時 肥料学 高野先生

二校時 肥料学 高野先生

三校時 土壌学 高野先生

四校時 剣道柔道 船越先生

五、所感

我等は一体何故に此の世に生れ出たのか。つまり人生の目的とでも言ふのか、この事については可成前から種々な空想に更り「耽」、まして或時は一躍千金を夢み或は高位高官のいかに愉快だろうとか、稍進んでは同じ親から生れた兄弟の一は大なる権利を得るに反し、一は大した権利も得ることの出来ぬのは何故だろう等と思へたこともあつた。而しそれら

のことは総て誤った皮相なる観察に過ぎなかつた。やはり我等は所長さんのお話の様に人様の世話になつて行かねば一日として生活の安定を得ることはむづかしいのだから大和民族の理想信仰によりて以てよりよく社会のため貢献すべきだと言ふことが自然判然となつてきました。最後に真に愚見を思ひついたまゝを記するに、ほんの形式とは言ふものゝ学期末試験をやつたら皆んなの記憶力を増し暗記力増大し大なる効果あるものと思ひます。

三月十四日 土曜日 梅津榮一

一、天候 曇

一、記事 午前五時起床、甲組武道、乙組掃除。

第一校時 江坂先生の果樹園芸の話

第二校時 蚕業講話

午後黙読時間なく休業す。九時就床。

一、所感 私は非常なぼんやり者である。当自治講習所は一家庭の如き感を与ふ。字をもつと上手に書けるやう努力せよ。

三月十五日 日曜日 岩本泰治

一、天候 曇天

一、日課 起床六時、全部清掃、全部皇国運動、朝食後休業

一、所感 今日は日曜日で、事務室にばかりいて諸先生の御人格に振れ、自分の頭に通切に感じられた事は先生の実に一刀両断な御方で有つて、亦、温情な御方で有ると云ふ事で有ります。吾等是一分間の時間も惜しんで他の事を思ふ暇なきまでに修養に心掛くる事に努力せなければならぬと思ふのです。修養は努力の結晶、成功は熱誠の偉力……実に然りです。

参月十六日 月曜日 寒河江与一郎

一、天候 曇天

一、記事 起床五時、甲組掃除、乙組武道

午前 自八時 至九半 高野先生の土壤

同 自九半 至十時 所長 農村経営

同 自十時 至十二時 高野先生の国民小訓講義

午後 自一時 至三時 五十嵐先生の産業組合

同 自三時 至四半 甲組武道、乙組実習

一、所感 諸先生の講話を聞く毎に僕の心は暗闇の所より一歩々明き方に進み行く気が何時もする。

三月十七日 火曜日 長谷川一郎

一、天候 降雪

一、記事 起床五時 甲組武道、乙組掃除

午前 自八時 至十時 肥料 高野先生

〃 自十時 至十二時 養鶏 森屋〔谷〕先生

午後 自七時 至三時 園芸 江坂先生

〃 三時 四時半 柔道 剣道

一、所感 私ハ日常鍛練シタル武道ノ精神ヲ以テ社会ニ立タナラバ何事モ出来ルト思フ。

三月十八日 水曜日 鈴木貞雄

一、天候 曇

一、記事 起床五時 甲組掃除、乙組武道

第一校時 高野先生ノ土壤学

第二校時 船越先生ノ習字

第三校時 高野先生ノ肥料学

第四校時 大掃除

所感 私ハ入所以来今ダニ自分ノ進ムベキ道、取ルベキ道ノ明カナラザルヲ遺憾トシテ居リマス。今後所長先生同僚ノ御熱心ナル鞭撻ニヨリテ、此ノ暗雲ノ如キ乱レシ心ヨリ信仰修業ノ結果明キ有意義ナル道ニ進ムベク、努力ニ務メマス。

三月十九日 木曜日 高橋喜代次

一、天候 曇

一、記事 起床五時 乙組掃除大和働〔やまとばたらき〕、甲組武道

自午前八時 至〃八時三十分 屠殺場見学ノ予備智識 江坂先生

自八時三十分 至十時 屠殺場見学

自十時 至十一時 土壤学（土地改良法） 高野先生

自十一時 至十二時 地理 中田先生

自午后一時 至三時 歴史（上杉鷹山公）五十嵐先生

自三時 至四時半 柔道 儉道〔剣道〕全部

自七時 至十時 遠田、鈴木（恒）両君の送別会

一、所感 私ハ生レテ始メテ屠殺場ヲ見学シマシタ。彼ノ巨大ナル牛ガグリナー式銃ノ一発ノ本ニ斃ル、様ヲ見、又彼ノ丸々ト太ツタ豚ガハンマーニテ一撃ノ本ニ斃サル、時ノアノ悲鳴ヲ聞イテハ哀ト思ヒ、又慘酷ナト感ジザルヲ得ナカツタ。然シ我々人間ノ為メニコウシタ犠生〔牲〕ナルナダト〔ママ〕思ヘバ実ニ感謝ノ念ガ我ガ胸ニ沸キ出デマシタ。家畜ヨ、今日アルハ人間在ル故、又永遠ニ汝ノ子孫ヲ残スハ我々ナルゾ。

今般鈴木恒太郎君ハ朝鮮へ移民セラレル、又遠田虎次君ハ三重県山崎延吉先生ノ農場ニ行カセラル、ノテ、自治寮生ガ一同ニテ送別会ヲ開ケリ。

鈴木、遠田両君ノ前途ヲ祝副〔福〕シ、又御壮健ニテ一意専心両君ノ分担ヲ果シ我大日本帝国ヲ弥栄ニシ且ツ日韓合併ノ実ヲ上グル手段ノ御一人トシテ未墾ノ地ヲ開拓セラレンコトヲ御願ヒスル次第デス。終リ

参月廿日 金曜日 菊地甚作

天候 晴天

記事 起床五時、甲組掃除、乙組武道

第一校時 桑樹栽培 荒木技師

第二校時 丁抹の農業状態 出納先生

第三校時 地方制度 刀禰保安課長

第四校時 休み

所感 由来不徹底不充実な私の儀、総ての事に相〔遭〕遇する度毎にうかうかせざるを得なかつた。依つて此処に入つて以来、常に悩まされたのであつた。然し今に到つてもそれは足らなひ〔ママ〕事は唯だ自分を赤面させるのみであります。真剣味のある諸先生方の有難き御教訓にあづかりまして其の得る所大なるものと思ふて居ります。衷心より感謝に堪へません。今后共どうぞどしどしやつて御教訓なさんことを切望致します。

三月廿一日 土曜日 小形三郎治

一、天候 晴

一、記事 五時半 朝掃除後、皇国運動ス。后春季皇靈祭ニテ休ミス。

一、所感 常々教訓ヲ守リ立派ナ大日本帝国ノ青年トシテ世ニ立ツ覚悟デス。

三月廿二日 日曜日 本間昌爾

一、天候 晴

一、記事 (イ) 午前五時半起床 (ロ) 全生掃除、便所ニ薬剤撒布ス (ハ) 皇国運動

一、所感 昨日今日ハ春季皇□〔靈〕祭加フルニ日曜ト二日間休日ノ為、三分ノ二モ帰省

シ其レ故力大變静カデアツタ。何時モ此様ニアリタイト希望ス。

三月二十三日 月曜日 加藤嘉久弥

一、天候 雪降り

一、記事 起床五時 乙組掃除

第一校時 營養之研究 江坂先生

第二校時 肥料学 高野先生

第三校時 郷土史 五十嵐先生

第四校時 武道

一、所感 上杉鷹山公ノ勤儉商議ノ法則ニ感心シタ

三月廿四日 火 平幸一

一、天候 晴レ

一、記事 五時起床、乙組武道

第一校時 習字 船越先生

第二校時 葡萄之研究 江坂先生

午后 全生徒ノ武道

自治寮見学ニ外カラ二名ホド来ラレタ。外ニ多クノ人ガ見ヘラレタ。

一、所感 元氣ナ吾等ハカナシム時ハアルデアラウカ。御国ノ為、否、世界人類ノ為ニ

歩一歩進ンダナラ常ニ樂シイ吾等デアリマセウ。

三月廿五日 水曜日 船山清徳

一、天候 曇り後小雨

一、記事 起床 甲組武道、乙組掃除

第一校時 桑樹栽培〔培〕法 荒木先生

第二校時 法制 相野田先生

第三校時 習字 船越先生

第四校時 大掃除

森谷先生御来所、自治寮見学飽海郡青年団来ラレタ。

一、所感 私ハ入所以来考ヘテ居ツタコトハ私ノ様ナ禺〔愚〕人デモ余程ノ智識ヲ増シ心中ハ浮々シナクナツタ様ナ氣ガスル。之レハ諸先生ノ御熱心ナル御指導ニヨルモノト考ヘテ居ル。デモ体ノ軟弱ナルノガ最モ悲觀スル所デアル。終リニ字ノ下手ナノハ恥ヅル所デス。

三月廿六日 木曜日 鈴木良助

一、天候 晴

一、記事 起床 甲組掃除、乙組武道

第一校時 所長ノ講話

第二校時 自習(一時間)後道場ニテ所長ノ移民者ニ対スル話、生徒一同モ聞ク。

第三校時 歴史

第四校時 武道

一、所感 本日ハ朝鮮ニ移民ナサル方々ガ出發ナサレマシタ。私ハアノ人々ニ対シテハ何トモ云エナイ感ガシマシタ。我が大日本帝国ノ為一部ノ犠牲ヲハラツテ先發隊トシテ元氣ヨク御出ナサレタ方々ニ対シテハ有難サハ何トモ云ハレマセン〔繰り返し記号あり、「云ハレマセン」部分のつもりか〕。以上。

三月二十七日 金曜日 大沼繁彌

一、天候 曇

一、記事 起床五時 甲組武道、乙組掃除

自八時二十分 至九時 所長加藤先生ノ農村経営ノウチ、地主ト小作ニツイテ講話アリ。

自九時十分 至九時五十分 高野先生ノ肥料学ノ内、智利硝石ニ付イテ、  
自十時 至十二時 高野先生ノ肥料学ノ内硫酸アンモニアニ付イテ、

自后後一時十分 至〃五時二十分 高野先生船越先生ノ引率ニテ一同南村山郡東  
沢村大字宝沢綿羊組合會長會田六右エ門様宅へ参へリ、綿羊視察。

一、所感 本日私ハ東沢村ト云フ一步モ踏ミ入ツタコトノナイ処へ行ツテ生レテカラ始メ  
テ可愛ラシイ羊ヲ見タ。ソシテ会田サンノ色々ナ説明ヲ聞キマシタ。其ノ飼養ノ極  
ク簡單デ、美クシイ暖カイ毛ガ沢山取レ、亦タ糸ニスルニモ雜〔造〕作ナク、暖カ  
イ衣服ガ出来ル、ト云フコトデ、非常ニ面白味アル愉快ナ私ノ村ニモ最モ有望ナ家  
畜デアルト思ヒ、是非飼ツテ見ナケレバナラント思ツテイル。帰途ニ天満宮へ参拜  
シテ別ナ道ヲ歩イテ来タ。馬見ヶ崎ノ堤防ヲ講習所へ真直グニ、コノ堤防ノ広イノ  
ニ驚イタ。新市街ガ出来ルトノ事デアルガ、高見ノ排水ノ良好ナ最モ理想ノ町ガ出  
来ルコトデアラウト思ハレル。何セ今日ハ最モ樂シク最モ有意義ニ、可成ノ運動ニ  
モナツタノデタ食ニ非常ニオイシクイタマイタ。有難イ一日デアツタ。了。

参月二十八日 土曜日 山口清篤

一、天候 晴天

一、記事 起床午前五時、甲組掃除、乙組武道

第一校時 高野先生ノ肥料学

第二校時 同上

午后休業

一、所感 敷島の大和魂の人とはば 朝日に香ふ山桜花

三月二十九日 日曜日 多田野正義

天候 曇天 雨模様

記事 午前五時半 起床 全生徒掃除 皇国運動

午前九時ヨリ 武道 所長ノ訓示アリ

午前十時半ヨリ 山崎先生ノ小作争議問題ニ付イテ有易〔益〕ナル講話アリ。

午後零時半ヨリ五時半迄 午前ノ続キ

東置賜郡中堅青年の短期講習会発会

所感 文字ノ上ニテ接シタル先生ニ直面シテ一種異様ノ感ニ打タレツ、先生ノ言々句々

胸ニ答ヘテ来ルノヲ覚ユ。然シ先生ハ東北地方ハ未ダ小作問題ニ対シテハ温格ノ如ク感ゼラレタル様承ツタガ皮相ノ観ノ様ニ聞イタ。温格ノ如ク見エテ實際ハ然ラズ。地殻内部ノ灼熱状態ニアルガ如キモノデハナイダロウカ。一度□所アランカ、爆發噴騰「ママ」セズンバ止マザル感ガスル。此レモ関西地方ノ余波ダロウ。今ノ内ニ確固タル基礎根底ヲ固メ居ラザレバ、何日如何ナル場処ニ爆發セズトモ限ラズ、実ニ社会ハ不安ノ念ニ覆ハレテ居ル。浮雲ノ如キ感ハ誰シモ有ルコトダロウ。シカシ此レハ至然「自然」ノ趨勢デ自然ノ勢イデハナイ。人自ラ対策防制ヲ講ズルニ於テハ未然ニ防ギ得ルダロウ。各自確固タル自覚ヲ有スルコトハ□層急務デハナカロウカ。以上。

三月卅日 月曜日 梅津榮一

天候 曇 午前中少々雨降ル

記事 起床午前五時 甲組武道、乙組掃除

午前八時半ヨリ「青年ノ力」ニ付キ山寄先生ノ講話

午前十時ヨリ所長殿ノ講話

午後一時ヨリ（五時半迄）所長殿ノ講話

午後七時ヨリ黙読 九時就床

所感 山崎先生ト所長ノ講話ニ感銘セリ。理想ニ燃ユル青年ノ力ハ偉大ナリ！

参月卅一日 火曜日 富樫實

天候 晴

記事 起床 午前五時、甲組掃除、乙組武道

午前八時三十分ヨリ清水先生産業組合ニ関スル講話アリ。午后ハ五時十分迄。此日清水先生ノ講演ニ三浦知事参列サル。短期講習生ト共ニ記念撮影ヲナス。当日短期講習会終リ一同散会ス。

所感 光陰ハ矢ノ如ク吾等入所以来今ヤ七十二日ヲ算スルニ至ツタ。此間吾等ハ日ニ日ニ諸先生ノ御指導ノ許ニ修養シテ来タ事ハ、吾等ノ何ト云フ幸福ノ事デアロウ。此様ナ幸福ノ中ニ生活シテ居ル吾等ハ此恩恵ニ報ユルニ何ヲ以テスベキカ。昨日御講演ナサレシ加藤先生ノ理想信仰ナル精神ヲ自覚シテ、農村ニ帰リテヨリハ農村経営ニ尽力シ以テ吾国農村問題。

四月一日 諏訪部健吾

天候 晴

記事 午前五時起床、甲組武道、乙組掃除

第一校時 清水先生の産業組合論中農業経営と現状調査に就ての講義あり。

第二校時 同上

第三校時（午後）全生徒武道（木剣）

第四校時 大掃除

本日ヨリ大江君今野君入所

所感 凡而（て）人間ハ仕事ヲナスニモ正シキ意味ニ於而（て）ノ自己ガ強クナケレバナ  
ラナイ。然シテ私ノ前半生ハ頗ル弱イモノデアツタ事ヲ覚ユル。何事カヲ為スニ当ツ  
テ、ドンナ抱負ガアツテモ多クノ障害ヲ切リヌケテ断行スル強キ意志ナクシテ、何事  
ヲ為シ得ベキ。ト共ニ、社会ノ向上ハ計リ得ルモノデナイコトヲ近頃特ニ私ノ心ニ命  
ズル。『シバラクノ間流感ニオソハレテ病中ニアツタトキ、先生方ノ真実ナル御厚意ト  
同寮諸君ノ同情トニヨツテ再ビ諸君ト一緒ニ修養シ得ルヲ得タルヲ、此誌上ヲ借リテ  
中心〔衷心〕カラ感謝ノ意ヲ表シタイト思ヒマス。与ヘラレタル御恵、其ノ魂ガ今私  
ノ身体ニ生キテ居ルコトヲ思ヘバ感謝ノ念ニ堪ヘマセン。幸ニモ何所カラ為シ得ルア  
レバ恵マレタル此魂ガ其ノ事ニ依ツテ永久ニ死滅シナイモノト信ズマスケレ共、遺憾  
乍ラ弱者ノ身、何等ノ為シ無キヲウラミマス。

四月二日 木曜日 阿部登作

天候 晴

記事 午前五時起床

乙組武道、甲組掃除

第一校時 高野先生 肥料学

第二校時 同

第三校時（午後）五十嵐先生ノ歴史

第四校時 柔道撃剣

所感 時節柄何ントナク気ガユンデキタ。此ノ氣持ヲナホサナケレバナラナイ。

四月三日 金曜日 石山竹彦

一、天候 曇

一、記事 午前六時起床、掃除、皇国運動等をやった。神武天皇祭にて休み。

一、所感 今日神武天皇祭故に日本健「建」国当時の歴史を想ひ起すと同時に、高野先生の皇国運動の皇国精神を感じ得らずにおらなかった。亦食事の際には皆んな家に帰って行ったので十名位しか居なかった。

四月四日 今野勇

一、天候 雪

一、記事 午前六時起床、掃除、皇国運動等を行ふ。

一、所感 今日は近日とちがって雪ふり、馬耕、塩水選等は休んで居り、苗のことが心配に思ひ、古里を思ひ出してあつた。

四月五日 日曜日 今田萬郎

一、天候 曇

一、記事 六時起床、一同掃除、皇国運動、今日は一日休み

一、所感 僕はより以上努力しなければならぬ。

四月六日 月 五十嵐雄助

天気 曇天

一、起床五時 甲組掃除、皇国運動、乙組木剣

一、第一校時 農業経営 高野先生

一、第二校時 農業経営 高野先生

一、午後ヨリ金井村見学 金井村々長より村況一般的講話、助役五十嵐氏質問に対する応答等。帰途中羽角家テツキンコンクリート建築、言わしめば文化住宅見学。然る後帰途に付く。時五時半。

所感 貴重なる生命の一部を吾々のために与へて下されし村長助役に感謝を表し、吾人の前に横たはる大なる農政問題に少くとも貢献せざるべからずと吾は感じ善く且つ信ぜり。以上。

四月七日 火曜日 矢萩貞一郎

天気 晴

一、起床 五時 甲組掃除  
 一、午前六時ヨリ 〃 〃 七時マデ 講堂ニ於イテ銀婚式ノ奉祝文綴稿ニ関スル詳細ヲ承ハル。

一、午前七時ヨリ 〃 〃 十時マデ 奉祝文の綴稿ニ各人室ニテ尽力ス。

一、午前十時ヨリ 各人自習。

一、午前〔ママ〕四時ヨリ 奉祝文起稿式ヲ行フ。

一、午前〔ママ〕五時ヨリ 玉木大尉ノ送迎ニ行ク

一、所感。今日は朝から講堂にて銀婚式の奉祝文に付きて承けたまりて、思ひ見るに御聖婚式を挙げらせられしより、満廿五年と成つた事も知らない我等は甚だ畏れ多い事と思つた。其れで我〔私〕くしは奉祝文を頭に有る感じを全部出して奉祝しようと思つて書いた。呼嗚〔嗚呼〕名誉かな、幸ひして私くしの奉祝文が選ばれました。

今日の喜びに私作歌を書きます。

弥栄に榮えし国は日の本の 迎〔仰〕ふぎ喜ろこぶ銀婚の大典

四月八日 山岸治輔

天候 雨後曇

起床 五時 甲組武道、乙組皇国運動

第一校時、第二校時、第三校時 高野先生ノ農業経営

第四校時 講舎ノ大掃除

七時：九時マデ黙読

所感ナシ

四月九日 木曜日 加藤友治

午前五時起床 乙組武道、実習、甲組皇国運動

第一校時 農業経営 高野先生

〃 林学 横田先生

〃 産業組合 五十嵐先生

午後三時ヨリ午後五時マデ 武道実習 船越先生

午後七時ヨリ午後九時マデ 自習

午後九時 礼拝、就床

所感 昨日高野先生の講演中、同情の真義は無形の同情が有形に現らはれ難しと、亦有形に現らはれざれば通ぜぬものなりときく。全く先生の体験より湧き出でし事と思ふ。全く自分もその一言はしみじみと感じたり。

天候晴 四月十日 金曜日 郷野勇助

午前五時起床、各自室内掃除、甲組武道、乙組掃除、皇国運動

〃 第一校時 農業経営 高野先生

〃 同二校時 農業経営 高野先生

午後第三校時 清水部長 人生観

午後三時より 自治村村会議員選挙

午後四時過ぎ 刀禰課長さんが心配して来てくれました。

午後七時より九時迄自習

午後九時 礼拝、就床

午前七時、江坂先生が朝鮮より帰りました。江坂先生と会って思はず喜びをうかべた。

所感 農家経営は農学と相矣〔俟〕て最も大切なことを感じました。

四月十一日 土曜日 高橋助廣

天候 晴

一、起床五時 七時礼拝、朝食、五時四十分ヨリ全員、皇国運動ノ講義ト皇国運動

一、第一校時 農家経営

一、第二校時 養鶏、江坂先生ノ郡山ノ話

午後休業

黙読時間ナシ

九時礼拝、就床

所感 今日江坂先生ノ話ニ、殖民ノ人タチガ農場ニ着イテ、ソシテ皆ガ共同シテ農業ヲナスト云ツテ非常ニ元氣デアツタト云フ事ヲ聞イテ、私等ハ非常ニ喜バシク感じマシタ。

四月十二日 日曜日 高橋耕作

天候 曇

起床六時……総員皇国運動

七時礼拝……朝食

日曜日ナル故ニ一同楽シク休ム。

所感 小学時代ノ教科書ヲ読ムヨリモ、現代流行ノ意気ナ小説ヨリモ、近頃ノ私シニハ哲  
学シミタ論理ノ方ガ読□様ニナリマシタ。殊ニ農民等ト云フコトヲ平凡ナガラモ考  
へ指導ハ如何ニ等ト云フコトヲ考ヘル様ニナリマシタ。□シテ妙ニ此ノ頃ハ肺病崇  
拝者ニナリマシタ様デス。頭腦ノ勝レテヨイ人ハ大抵肺病デヤラレルノデス。肺病  
ト云ヘド今迄ハ恐シイモノニ思テ居リマシタガ、近頃ハ何ントナク懐シイ様ナ氣ガ  
致シマス。斯ル人ニハ皇国運動ヲ御ススメシタイモノデアリマス。

四月十三日 月曜日 菱沼禮治

天候 晴

起床……午前五時、甲組武道、乙組皇国運動

七時 礼拝……朝飯

八時……十時迄 高野先生 農家経営

十時……十二時迄 所長 農村経営

午后 昼飯

午後一時……三時迄 五十嵐先生 産業組合

午後三時……四時半迄 剣道、柔道

午後五時 夕飯

七時ヨリ所長ノ農村経営、午前中ノ続キ、地主ト小作自作農ノ話

九時 礼拝 就床

所感 久しぶりにて所長の御話を聞きまして嬉しい。自作農と小作農及び地主との関係の  
御話は我等の農業経営する上に於て、あの問題が欠くべからざるものである。我等は大い  
に力むべき所あるを知り受けて、非常に愉快に感じ且つ努力するべきに直感した。以上。

四月十四日 火曜日 樋口若二

天候 晴

起床午前五時、各寮室整頓清潔

甲組皇国運動、乙組武道

八時……十一時迄 所長 農村之経営

十一時……十二時迄 森谷先生 養鶏

午後一時ヨリ 千歳座に活動見、六時迄

午後ヨリ福島青年団の視察

所感 諸先生の御指導により吾人の人生観が判明した。今日の青い鳥の活動写真により又大いに得る事が多かつた事を感じる。

四月十五日 水曜日 設楽恵吉

起床 午前五時

甲組武道、乙組皇国運動

八時—十二時迄 所長 農本経営

一時—二時 〃 〃 〃 〃

二時カラ農事試験場視察 五時過ぎ帰校

七時半カラ八時頃迄朝鮮郡山地方ノ活動写真ヲ写ス、江坂先生ノ説明

所感 我が国ノ現状、金ニ対スル事ヲ聞カサレルト実ニ遺憾デアル。ソレニ附テコノ改善ハ我等双肩ニアルト言ハレ、責任タルヤ重ク且遠大ニ度胸ヲ据ヘナケレバナラナイト感シタ。午後農事試験場見学ニ行ツタ。試験場ノ人ニ案内サレ果樹園桑園等種々ノモノヲ見ル。就而〔テ〕好春日和ニ青ク青ク延ビタ麦、何トモ云ヘナイ無限ノ春ノ気分ガ湧クノデシタ。五時頃帰校スル。夜ハ郡山ノ活動写真デ活弁デ鳴シタ江坂先生ノ説明ガアツタ。郡山地方ハ目ノアタリ見ル心地、移民シタ鈴木君等ノ生活ガ羨マシク感ジラレタ。

四月十六日 木曜日 荒木勝次

天候 快晴

起床 午前五時

甲組掃除、乙組武道

八時出発して煙草専売局視察

十時自由解散、十二時迄全部帰校

午後一時—三時迄 郷土史 五十嵐先生

午後五時 夕食

午後七時半—九時十五分 茶話会

所感 専売局視察ニ行ツテ高野先生ノ言ハル、如ク分業ト言フモノハ的確ニナツタ。多ク男女工達ガ己ガ職ニ分目モ振ラズ真剣ナルニハ敬服又感服セザルヲ得ナイ。又殊ニペイピア沾リニハ驚イタ。全ク機械ノ如クデアアル。多クノ作業中デ一番衆人ノ目ヲヒク。斯様ニ現社会モ確然タル現実デアレバ、無上至極デ能率増進ハ目ノ前デアアルニ、何ト言フ齒痒イ現実デアラウト思ヘバ情ナイ。然コレニハ各人自己ノ職即チ分業ヲ真剣ニヤルカラダ。僕ハ将来農ナル分業ヲ真剣ニ行ヒ、ソレヲ彼ラ他ニ及ボサウト決心シタ。夜ハ隣県タル福島県ノ青年ト茶話会ヲ開キ非常ニ面白ク散会シタ。

四月十七日 金曜日 森浅吉

天候 晴天

起床 午前五時

階上 武道、階下 掃除、皇国運動、七時礼拝、朝飯。八時ニ福島県青年帰県ス。九時 江坂先生ノ蔬菜栽培、十一時 所長ノ農村経営、一時二十分 昼飯、二時半 武道実習、五時迄、五時…夕飯、七時黙読時間、九時礼拝。

所感 福島県青年一同ト共ニ道場ニ会シ色々ノ御話ヲシタ末、彼等青年等トルハ我等ト共ニ別レテ雄々シク講習所ヲ去ツテ行キマシタ。此ノ度ノ講習会ハ青年等ニトツテハ非常ナ光荣ダツタラウト察セラレル。修養ノ点モ亦然リ。青年等ハ帰県ノ後チ大ナル奮闘セラレ皇国ノタメニ益サル、コトト思フ。吾ハ青年等ノ努力ヲ祈ル。終リ。

四月十八日 土曜日 吉村隆

天候 曇天

起床 午前五時

第一校時 加藤先生の農村経営につき講話があった。

第二校時 高野先生の農家経営につき講話があった。

おひるから休み。

所感 なし

四月十九日 日曜日 榎秀雄

天候 晴

起床 午前五時

第一校時 朝食ノ後休

昼食ヨリ休

所感ナシ

四月二十日 月曜日 後藤初郎

天候 晴

午前 起床五時

甲組武道、乙組皇国運動

七時礼拝、朝飯

八時ヨリ九時半 江坂先生蔬菜

一〇時ヨリ三十分同ジク蔬菜、後三十分朝鮮ノ話

一一時ヨリ一二時、農村経営、所長

午后一時ヨリ三時、歴史、五十嵐先生

三時ヨリ四時 十期生記念アルバム写真撮影

五時マデ奥外〔屋外〕掃除、夕飯

所感 森川先生ニハ八十才ノ年ヲ過テモ非常ニ元氣ニ御話シシテ下サルノモ皆、体ガ第一健康ナル故ニナリ。先生ニ話サレタ時、成程体ハ大切ニ丈夫ニスベキモノデアルトツクツク感ジタ。現代ニ至ツテハ上ヨリ下ニ至ルマデ悪水ガドンドン流ル、様ハ森川先生ノ話サル、通り自分トシテ自分ノ心ノカメラニ非常ニ悪イ。今後ノ日本ガ如何ニ立ツ得可キカノ事ハ焼ニ焼キ付イテシマツタ。其ノ第一歩ヲ歩行スルノハ私等ノ立場ナリ。

書キ忘レタ

午後七時三十分ヨリ九時マデ 現代ト昔トノ進ニ就テ森川先生。終リ。

四月二十一日 火曜日 鏡 清

一、天候 曇り

一、記事 午前五時起床

甲組掃除、皇国運動、乙組武道、午前七時朝食

第一校時 午前八時ヨリ八時半マデ所長殿ノ森川翁ヲ基トシテ吾々青年ノ立ツ可

キ道大和魂ヲ發揮セシムシ得可キ大刺戟ヲ与フル講演ヲ成サレタ。時間ハ小ナリ

ト雖モ得ル所大ナリキ。同第九時ニ我等ノ尊敬スル志人森川先生御帰りニ成ラレ  
 タ。第二校時、第九時ヨリ拾壹時迄習字、第參校時、拾壹時ヨリ拾貳時迄所長ノ  
 講演アリ。

正午 昼食

第四校時 午後壹時ヨリ同三時マデ

学務課長殿ノ憲法ノ講義アリ。午后三時半ヨリ擊劍柔道農業実習庭園掃除等アリ。  
 所感 昨夕ハ我等ノ尊敬スル秋田県ノ老農森川翁ノ意志強固ニシテ真面目ナ昔日ト現今ノ  
 差ガ甚ダシイ事ヲ歎ゼラレ、為メニ事実吾々ハ己ガ心ニ徹シ、大和民族ノ理想信仰  
 ノ実現ニ勇往邁進セン事ヲ深ク感ジタ。御話ノ通り事実其ウナノデアル。男女ノ区  
 別モ解ラナイ様ナ、男ニシテ女子ノ着ス可キ衣服ヲ下着等ニ着シテ得意然トシテ居  
 ルノヲ見テモ、吾々ノ大和魂ハ慨歎セザルヲ得ナイ。人間ナルモノハ衣服其他ノ環  
 境ニ支配セラレテ心ノ動ク性質ノアルモノダ。例ヘバ羽織ニ袴ヲ着スレバ自分ノ心  
 モミツシリシ、又洋服等ヲ着スレバ元氣ニナルトカ。農夫ノ仕度ヲスレバ自ラ農民  
 タルガ如ク。男子若シ衣服ニシテモ女子ノ物ヲ用インカ、即チ其ノ心モ女子ラシク  
 成ル事ヲ信ズル。マシテアノ頑固ナル森川先生、旅行ニ際シ其ノ様ナモノヲ見テド  
 ノ様ニ感ジタデアロウ。  
 吾々ハ森川先生ノ話ヲ目前ニ聞キ、所長殿初メ諸先生ノ修養談ヲ聞ク度毎ニ深ク我  
 等ノ責任ヤ、重且ツ大デアル事ヲ心ニ徹スル。歩行スル時デモ常ニ下腹ニ力ヲ入レ  
 テ、真面目ニ大和民族ノ男子ラシク總テヲ行フノガ信ズル道デアル。大イニ務メ  
 マセウ。大イニ大和民族ノ理想信仰ノ実現ニ励ミマセウ。終リ。

四月二十二日 水曜日 武田實

一、天候 曇

一、記事 午前五時起床

甲組 武道

乙組 掃除皇国運動

礼拝 七時五分

朝食 七時二十分

一、学科 一校時 蔬菜園芸、江坂先生

二校時 農村経営（清水氏ノ産業組合ヲ基礎トシタル所長サンノ御講話）

三校時 地方制度 刀称先生 (選挙)

四校時 大掃除、校外、校内共、五時十五分終ル

夕食 五時半

黙読 七時ヨリ九時迄

礼拝 九時

就床 九時 (ママ)

一、所感 清水及衛氏ノ経歴、噫！ 幾多ノ逆境、母様ノ説諭、之ニ対スル清水氏ノ決心ト奮闘、亦ソノ手段、方法ヲ拝聴スル時、実ニ吾人青年ノ義務タルベキ堅実ナル社会ノ前途ヲ経営スベキ覚悟、亦、立場ヨリ注視スル時、強ク鋭ク、実ニ魂ノ底ニ強壯ナル興奮劑ヲ投ゼラレタル心地シテ、疲弊困憊、亦混濁セル農村ニ対シテ反撥心ハ自ラ燃エ、決心ハ益々鞏固トナルノデアル。吾人青年ノ農村ニ対スル努力、否、帝国ノ弥栄ヲ図ルベキ貢献、努力ノスタートハ切ツテ下サレタノデアル。オ、チャンピオンハ競ウテ走ル、然シテ此ノ競争ハ終生続クノデアル。ソシテ決勝点ニ到来スル事ハ甚ダ難事ナノデアル。奮へ闘へ!! 吾等若キ青年ノ責務ヤ重且ツ大デアル。 終リ

四月二三日 木曜日 山岸治輔

天候 曇雨

記事 午前五時起床

甲組掃除、乙組武道

礼拝七時、朝飯七時五分

一、学科

第一校時 横田先生 林業

第二校時 荒木先生 桑樹栽培法

第三校時 船越先生 習字

第四校時 船越先生 柔道、剣道

夕飯 五時十五分

七時ヨリ五時迄黙読

九時礼拝

九时就床

一、所感

四月二十四日(金曜日) 雨 林勘次郎

記事 先日所長先生が皆なに出した問題について今朝詳しい説明して下さつて、私達に五町歩経営の農場を計画する問題を出された。十一時より所長先生の産業組合の御話しあつた。二時より三時まで所長先生の御話し、午前の続き。三時より六時まで武道。

所感 敷島の一つ心をますらが 各も各もに分ち立たなむ  
先生の熱心な御話しで理想信仰がダンダン分つて来ました。

四月二十五日 土曜日 早坂喜平

天候 晴

起床 午前五時

乙組 武道、甲組 皇国運動

七時 礼拝 食事

八時二十分—九時迄 江坂先生 果樹

九時半—十二時迄 所長 伊太利ノ地主ト小作関係、清水先生ノ産業組合

午後 休業

午後五時半 夕食 目読時間ナシ

九時礼拝 就寝

所感 身体が悪い所長さんが農村の為にとおいといなく又東京へ今夜出發された。殊に今日は具合が悪いと言つて居られた。この有難い心持を体して我々奮闘せねばならぬのだ。考へれば僕等の農村は濃霧に包れて理想の光明が輝かない。我はこの濃霧より皆んなも逃れさせて理想のさす新農村を築き上げ様と決心す。

四月二十六日 日曜日 庄司三左エ門

天候 曇

記事 午前五時二十分起床、一同皇国運動

七時二十分礼拝、食事後休ミ

昼食十二時十分、後休業

午後五時夕食、後休業

事業なし

九時礼拝、同九時就床

四月二十七日 月曜日 平山正明

天候 曇

起床 午前五時

甲組 武道、乙組 皇国運動

第一校時 森谷先生 養鶏

第二校時 学務保長 法制

第三校時 五十嵐先生 教土史〔ママ〕

第四校時 柔道撃剣

所感 なし

以上なし

四月廿八日 火曜日 矢野久蔵

天候 晴

起床 午前五時

甲組掃除、皇国運動、我乙組武道

午前七時礼拝——朝食

〃 八時ヨリ同九時マデ 農村経営 加藤先生

〃 九時ヨリ午後四時迄 山形聯隊へ軍旗祭見学

午後四時ヨリ同五時半マデ農村経営 加藤先生

午後五時 夕食

午後七時ヨリ九時マデ 黙読時間

午後九時礼拝 ——就床

所感 農業ヲ経営シテ行ク時ニ、仕事ノ要点ニハ経営方針確立者ニ於テ着手セヨトノ所長ノ講演ハ、必ズ実行スル事ヲ内心ト誓約セヨ。